

(第三種郵便物認可)

加害者にはならないで

江角さん、邇摩高で命の授業

大田市仁摩町の県立邇摩高校(山岡雄一郎校長)で29日、命の大切さを学ぶ教室があり、15年前に交通事故で娘を亡くした出雲市斐川町の仁照寺住職、江角弘道さん(69)が、全校生徒236人を前に「亡くなった娘から命のメッセージ」と題して、命の大切さを訴えた。

を目的に開いた。

島根被害者サポートセンター、県、県教委、県警本部が、将来の社会を担う高校生に、被害者が犯罪から受け取ったさまざまな痛み、子どもを亡くした親の思い、生命の大切さなどへの理解を深めるとともに、犯罪を起さずにはならないという規範意識の向上を図ること

in出雲」を実行委員として成功に導いた。現在も被害者支援活動や、命の大切さを訴える講演活動をしている。

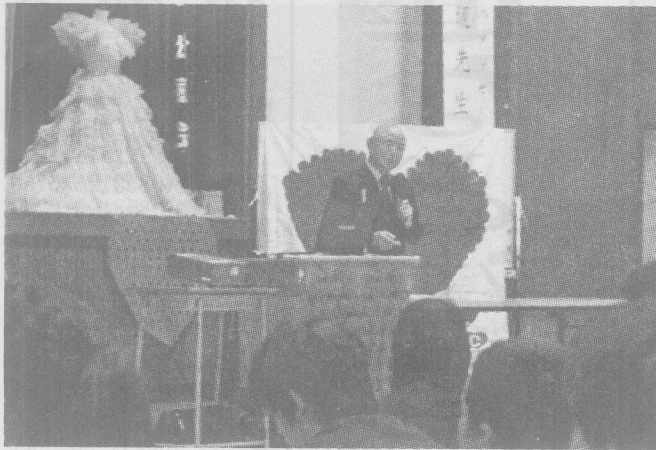
講演では、事故で家族を亡くした遺族が味わう苦しみを語り、一人の死が多くの人のその後の人生に大きな影響を与えること、遺族によっては残りの人生を恨みの気持ちだけで生き、自死を選ぶ人もあることなどを紹介。

自身は、同じ苦しみを味わっている遺族と連携することで社会活動を始めることがで

き、「二度と理不尽な死は起こしてはならない」と事件や事故をなくす手立てを考えることができるようになり、危険運転致死傷罪の成立に向けて動いたことなどを話した。

最後に、被害者の苦しみ、家族の苦しみを友人の嘆きなどを深

く理解して、決して自分には加害者にならないという決意をしてほしい、今生きていることは奇跡で、生きているだけで100点満点、夢を叶えるためには死ぬことが絶対にはいけないこと、自分で死ぬことは絶対にはいけないと訴えた。



命の大切さを訴える江角弘道さん